

## 学位審査最終報告書

学位申請者氏名	向井 恵利紗
博士の専攻分野の名称	博士（医療薬学）
学位授与の日付	平成 28 年 3 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	宮崎県北部山間地域住民の医療アクセスと医薬品適正使用状況
発表雑誌	医療薬学 39 巻 225～236 頁 2013 年
発表審査委員	主査 教授 鈴木 彰人 副査 教授 高村 徳人 副査 准教授 大河原 晋 副査 教授 本屋 敏郎（指導教員）

## 論文内容の要旨

### 1. 目的

宮崎県北部山間地域住民は、医療機関や医療提供施設へのアクセスが悪く、医療従事者との接触も少ない。そこで本研究では、過疎化・高齢化が進む山間地域住民の医療アクセスや医薬品適正使用といった医療の現状を明らかにすることを目的に調査を行った。

### 2. 方法

宮崎県北部都市部中心地域の延岡市 A 地区及び山間地域の門川町 B 地区、日之影町 C 地区、延岡市 D 地区、椎葉村 E 地区の 65 歳以上の高齢者を対象とし、訪問調査員（薬剤師免許を持つ大学教員）による戸別訪問インタビュー調査を行った。インタビュー内容項目は、住民基本情報、医療環境、医薬品適正使用状況、その他の 4 つに区分し、その詳細についてフォーマットに従って記録した。調査時にそれぞれの地域住民の健康に関連する問題が見つかった場合には、受診勧奨や服薬指導等の医療対応を行った。

### 3. 結果

医療環境として半径 1km 圏内に医療機関がある地区は A 地区のみであり、それ以外の地区では移動距離として少なくとも 10km 圏内に医療機関は存在しなかった。巡回診療は C 地区と E 地区の一部集落で行われていた。かかりつけ医療機関を持つ住民の割合は地区間で差が認められたものの、多くの住民はかかりつけ医療機関を持っていることが明らかとなった。一方、かかりつけ薬局を持つ住民の割合はいずれの地区においてもかかりつけ医療機関より低値であった。山間地域において、処方薬の多剤服用による副作用発現や服薬の意義に関する理解不足といった問題が挙げられた。また、一般用医薬品や配置薬の適正使用に関する問題は常備率の高い地域において挙がり、その内容は処方薬と一般用医薬品の重複等であった。

#### 4. 考察

医療アクセスの負担軽減という観点で巡回診療は重要な医療サービスの一つであると考えられた。かかりつけ医療機関に対し、かかりつけ薬局を持つ割合はいずれの地区でも低値を示し、医薬品適正使用における薬局の役割が地区によって認知されていない可能性が示唆された。A 地区で抽出された問題はいずれも服用忘れであり、治療に対する理解不足とは異なった。一方、山間地域の中でも特に医療アクセスが良くないと考えられた D 地区では処方薬の理解不足によるノンコンプライアンスや配置薬に関する問題などが発見された。本研究では、山間地域の困難な医療現状を明らかにし、薬学的介入が山間地域住民への医薬品適正使用推進に有益であることの知見を得た。

## 論文審査結果の要旨

### 1. 論文の内容評価

本論文は、山間部過疎地域における 65 歳以上の高齢者を対象に医療環境及び医薬品適正使用に関する調査を行ったもので、その目的及び研究手法は十分に妥当である。

山間地域においては医薬品適正使用に関し、医療アクセスが悪い、かかりつけ薬局を持っている割合が低い、セルフメディケーションへの依存度が高いなどの事情により、中心地域以上に薬剤師の活動が必要であることを明らかにしている。これらの結果・考察についても妥当である。

なお、論文の新規性・社会貢献性の審査に当たっては、本研究科学位審査ルーブリック表を用いて評価し、合格点を得た。

また、本研究結果は、インパクトファクターを持つ国際英語学術雑誌と同等以上と本研究科が認定した国内雑誌に投稿、掲載されており、本研究科の定めた審査要件に適合した。

### 2. 口頭発表・質疑応答の評価

口頭発表においては、本研究内容を的確に発表した。発表スライドの図表や説明の方法にも工夫がみられ、内容を容易に理解できるものであった。また、種々の質疑に対しても的確な回答が得られ、研究内容を熟知していると判断した。

以上のプレゼン能力及び論理的思考能力に関しても本研究科学位審査ルーブリック表を用いて評価し、合格点を得た。

### 3. 本審査結果

本研究の論文内容評価、および口頭発表・質疑応答の評価から、本研究および論文は、医療薬学領域研究に貢献するところが大であり、本学医療薬学研究科委員会における投票の結果、博士（医療薬学）の学位に値するものと判断した。